



クルーズ船のひしめくバルセロナ港

バルセロナ港は、2016年には758隻、約268万人の利用があり、4万トン級のクルーズ船が5隻同時に接岸することができます。クルーズ船が同時に寄港する際には、バルセロナ市内に多くの乗船客が押し寄せ、賑わいを見せます。一方で、乗船客が市内にあふれかえるために、市民が生活に使用する歩道が占拠され、市民の日常生活に影響を及ぼすという課題も生じてきています。クルーズ船の寄港件数は年々増加する傾向にあることから、市民と乗船客をはじめとする観光客との共存について考える時期にさしかかっています。



世界の地域から バルセロナ (スペイン)



バルセロナ五輪選手村の再開発

撮影：山城拓也 (Takuya Yamashiro)

1992年に開催されたバルセロナ五輪では、海岸沿いの荒廃した工業地域に選手村を建設し、美しい海岸線の景観を復活させ、地中海都市のイメージを世界に発信することに成功しました。現在は一般向け住居に転用されており、IT等のクリエイティブ産業を中核にすえた都市開発が継続して進められています。バルセロナ五輪を開催するにあたり、当時地上を走っていた列車が選手村の建設や選手の動線に支障をきたしていたことから、路線の一部を地下へ走らせ、選手村の建設スペースおよび動線を確保しました。列車が地上を走っていた当時使っていた枕木を街中のオブジェに活用しているところは、当時の名残を感じさせます。